



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/10/03(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 154

第66回 北海道民バスケットボール大会を終えて

ThirtyGirls
金井 政博

平成26年7月19日～7月21日 室蘭市体育館と登別市総合体育館で男子Aと女子の試合が開催された。

道民大会は実業団、教員、クラブ、大学生が一堂に会し北海道NO.1を決める、大学生以上の大会では最も大規模な大会となっている。

女子決勝

ThirtyGirls 70-57 アカシヤクラブ

5年連続で決勝進出した ThirtyGirls と11回目の優勝を狙うアカシヤクラブとの、2年連続の対戦となった。

年間に何度も対戦するため、お互いの選手の特徴、チームの特徴を良く理解している。今回の対戦では決勝までのプロセス、怪我人を含むコンディション、そして今年度の新戦力が ThirtyGirls に有利に働き、70-57で ThirtyGirls が2回目の優勝を飾った。

この2チームが対戦した場合、この程度の点数になる。それはお互いのチームに経験の多い選手が多く、無理なオフェンスを繰り返すことがないからである。

また、ヘルプのタイミング、スクリーンアウト等々ファンダメンタルがしっかりしている為に、高得点のゲームにはならない。さらに、セットオフェンスで確率の良いシュートを選択しようとする意識が高く、無理な走り合いにはならないからである。

ディフェンスで勝って行くということ。

ThirtyGirls はマンツーマンでもゾーンでもディレクションを大きくとる。相手の能力に合わせて、約束とは逆には100%抜かれないようにスタンスを取る。そして約束の方向に抜かせてからのヘルプの位置が安定していると、リレーションが生まれる。

ディフェンスを頑張るチームであるためには、その回数も非常に大事になってくる。ディフェンスの回数が少なければ、それだけ一回のディフェンスに集中出来る。

多くのボールスポーツ、特にアメリカンフットボールではその考えは徹底されているようで、オフェンスの終わり方(シュート確率、オフェンスリバウンドの入りやすさ)がチームで納得できているかが大事だと考えている。

その為に、殆どのセットオフェンスをナンバーコールから始める。週に二回しか練習出来ない環境にあるクラブチームでは効率よくスクリーンを使うこと、毎回の練習に参加出来な

くても約束を覚えることによって、オフェンスに参加出来る。強引にでも体を動かすことを大事にし、しっかりセットオフェンスを組み立てることにより、ディフェンスとオフェンスの回数のバランスをトータルで考えることが出来る。

それにより1クォータ15点以内、トータル60点以内のポイントコントロールを実現している。大きな点数差は期待できないが、安定したゲーム展開を作り、負けないチームを目指している。

それがディフェンスで勝って行こうと思うチームの、チームビルディングだと考えている。

育成について

私自身、小学生中学生にバスケットボールを指導する機会を与えて頂き、色々なチームのプレイヤーを指導しているが、まだまだ育成は浸透しておらず、能力があるにも関わらず指導されていない選手を見ると、残念に思うことがある。

それぞれの指導者にはそれぞれのフィロソフィーが存在するのだと思うが、その年代で最低限、出来ていなければならないことを指導者はもっと知らなくてはならないと思う。

特に技術的なことは勿論だが、バスケットボールの指導者はもっと筋肉の専門家になる必要があるのではないだろうか。

スクワットポジションやヒップヒンジポジションの獲得やスタビライゼーションを早い段階に行うと、その選手の体の動かし方は後に大きく変わる。

少しお金を出してでも年に何回かはトレーナーをチームに呼んで、小学生、中学生に最先端の正しい体の動かし方を教えて行く必要を感じる。もっともっとトレーナーが活躍する場面を増やして行かなければならない。

最後になりましたが、北海道バスケットボール教会、室蘭地区協会、そして審判の皆様、紙面をお借りしてお礼申し上げます。